

伊高生、頑張っています!

号外

10/26(木)

伊集院高校の生徒のみなさん・先生方への御礼

伊集院高校のみなさんの役員業務内容は主に、競技運営上主たる配置になりました。その業務内容は、全て気の抜けない、いわゆる要所中枢の配置でした。リハーサル時には、中々国体の雰囲気や業務内容に対してリラックスした気持ちと楽観視した気持ちでいました。

しかし、実際に国体会期が始まると、それまでの表情は一変し緊張感漂う陰しい真剣な眼差しと表情に変わりました。

誰もが未知との遭遇の中で、不安な気持ちになり今からどのようなことが行われるのか、また、行わなければならないのかと。

そのような状況の中で、先陣を切って、本部放送の生徒さんが開会式や開会式後のアナウンスを見事に行い、それに続けとばかりにマツ放送のアナウンス生徒の地元愛と真心のこもった「鹿児島弁」でのアナウンスコールが会場内で大ヒットし、会場全体の雰囲気を和やかにし、しかも「ザ・鹿児島」を46都道府県の方々に体感させてくれました。この地元愛の詰まった方言アナウンスを日本レスリング協会の大会役員の方々は「国体アナウンスコール」と命名し深く感銘され、伊集院高校生のマツ放送系の自発的なアクション（事前打ち合わせなし・放送原稿に記載なし）に更に驚愕されていました。

このような、緊張感溢れる只中で生徒が自発的にしかも積極的な行動を正々堂々と誇らしげに行うことに会場は感動のるつぼとなりました。

46都道府県の選手監督、役員の方々に最高の鹿児島一番のおもてなしができました。また、進行・記録と大変緊張する業務を、時間を追うごとにスムーズにしかも確実にこなして行く姿にいつの間にか私どもは目を奪われ、いつしか頼もしささえ感じるようになりました。

会場内はエアコンはかけているものの、大変暑く不快な状況であるのにも関わらず、不平不満の一言もなく真剣な表情で取り組んで頂きました。

本部放送・マツ放送・本部記録・本部連絡という競技運営の要を状況に応じて臨機に対応しスムーズに行えるように適応していく力に、感銘を受けまた、深く感謝申し上げます。

伊集院高校の生徒の皆さんのお力添えがなければ成功しませんでした。

これは決してお世辞や過言ではありません。

関係者全てが一堂に口にしていました事実であります。

突発的に競技式典の表彰の係もして頂きましたが、凛として堂々と表彰の係もしてくれました。

伊集院高校の教育力の高さを、強く感じるとともに先生方のご指導の賜物と拝察いたします。

校長先生はじめ、先生方、競技役員に参加して下さった生徒のみなさんに心底より深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

伊集院高校のこれからのご活躍を祈念いたします。